



五月三日ロエスレル氏、質問録

山田

大隈 殿



第 二 場 合 = 於 テ 之 ヲ 為 シ 得 ル ナリ
 千 八 百 十 年 ノ 河 本 此 訴 願 ハ 旧 時 ノ 勅 令 殊 ニ
 為 シ 得 ル モ ノ ニ シ テ 事 件 ノ 如 何 ナ ル 性 質
 = 拘 ハ ラ ス 然 テ ノ 場 合 = 於 テ 之 ヲ 許 セ リ
 但 法 律 ヲ 以 テ 行 政 訴 訟 又 ハ 有 式 訴 願 ヲ 許
 シ タ ル 場 合 ハ 此 限 = 在 ラ ス
 問 無 式 ノ 訴 願 ヲ 為 ス 場 合 及 ビ 手 續 ハ 如 何
 答 此 訴 願 ハ 行 政 廳 ノ 知 命 = 對 シ テ 一 級 上 等 ノ 行
 政 廳 = 提 起 ス ル モ ノ ニ シ テ 訴 願 人 ハ 訴 願 = 對
 シ 答 書 ヲ 求 ム ル ノ 推 ア ル モ ノ ト ス 但 其 答 書 =
 理 由 ヲ 付 ス 可 キ ト 否 ト = 付 テ ハ 確 答 シ 難 シ
 問 有 式 ノ 訴 願 ト 無 式 ノ 訴 願 ト = 於 テ 性 質 上 異 ナ

ル 所 ア リ ヤ
 答 性 質 上 = 於 テ ハ 異 ナル 所 ナシ 唯 異 ナル 所 ハ 有
 式 訴 願 = 在 テ ハ 法 律 = 定 ム ル 所 ノ 式 例 之 ハ 提
 起 期 間 及 ビ 提 起 手 續 等 = 依 ル = 非 サ レ ハ 之 ヲ
 提 起 ス ル 一 能 ハ サ ル ト 無 式 訴 願 = 在 テ ハ 斯 ノ
 如 キ 式 ヲ 要 セ サ ル ト = 在 リ ト ス
 問 哀 願 ト 訴 願 ト ハ 区 別 ス ル 所 ア リ ヤ 又 一 千 八 百
 十 年 ノ 勅 令 = 掲 ケ タ ル 訴 願 = ハ 哀 願 ヲ 包 含 ス
 ル ヤ
 答 哀 願 ト 訴 願 ト ハ 自 ラ 区 別 ア リ 哀 願 ハ 国 王 又 ハ
 議 會 = 提 出 ス ル モ ノ ニ シ テ 訴 願 ハ 行 政 廳 ノ 知
 分 = 對 シ 上 級 行 政 廳 = 提 起 ス ル モ ノ ナリ 而 シ
 テ 一 千 八 百 十 年 ノ 勅 令 = 掲 ケ タ ル 訴 願 ハ 行 政

廳ノ処分ニ對シ一級上等ノ行政廳ニ提起スル
 モノナルヲ以テ其訴願ニ哀願ニ規定スル所アリ
 勅令中ニハ哀願ニ関シ規定スル所アリ
 問 行政訴訟ヲ許ス可キ場合ハ理論上如何ナル場
 合ニ於テスルヤ
 答 其事件ヲ審判スルニ裁判上ノ手續ヲ必要トス
 ルモ即チ推利毀損ノ場合ニ於テ之ヲ許ス可キ
 モノトス
 問 訴願ニ付テハ如何
 答 其事件ニ付キ裁判上ノ手續ヲ必要トセサル片
 即チ利益ニ関スル場合ニ於テ之ヲ許ス可キモ
 ノトス
 問 訴願ハ普通ニ之ヲ許サル可カラサルヤ將タ

之ヲ為レ得ル場合ヲ制限シテ許ス可キ得ルヤ
 答 何人トモモ行政廳ノ処分ノ為メ自己ノ利益ヲ
 毀損セラレタリトスル者ニハ必ラス之ヲ許サ
 サル可カラズ即チ普通ニ之ヲ許サル可カラ
 ス然ラレバ公平ヲ維持スルノ能ハサルナリ
 問 行政訴訟ニ付テハ如何
 答 行政訴訟ニ付テハ亦然リトス予ノ抱持スル意
 見ハ權利ニ関スル場合ニ於テハ行政訴訟ヲ許
 シ利益ニ関スル場合ニ於テハ訴願ノヲ許ス
 ヲ可トス換言スレバ墾國ノ制ヲ採用スルヲ可
 トスト云フニ在リ
 墾國ニ於テハ一箇ノ行政裁判所アルニ付
 此裁判所ハ人民ノ權利毀損ニ係ル訴願ニ付

中為ニタル行政廳ノ終結決定ニ對スル行政訴
 訟ヲ受理審判シ行政廳ハ總テノ訴願ヲ受理決
 定ス而シテ訴願ハ行政廳ノ處分ニ對シ權利ニ
 關スル場合ナルト利益ニ關スル場合ナルトヲ
 問ハス總テ之ヲ一級上等ノ行政廳ニ提起スル
 フ得ルナリ
 問テ國ノ制ト墾國ノ制ト異ナル所アルモ權利ニ
 關スル場合ニ於テハ行政訴訟ヲ許シ利益ニ關
 スル場合ニ於テハ訴願ノミヲ許スモノト為ス
 ニ至テハ其主義ヲ同クスルヤ
 答甚タ答辨ニ因リナリ學國ニ於テハ三級ノ行政
 裁判所アリ郡參事會縣參事會高等行政裁判所
 是ナリ而シテ郡參事會縣參事會高等行政裁判所
 是ナリ而シテ郡參事會縣參事會高等行政裁判所

既ニ定ハタル如ク法律ヲ以テ規定セリ此制度
 ハ自治制ト密着ノ關係ヲ有スルヲ以テ行政裁
 判權限法ハ主トシテ自治体ノ為メ制定セラレ
 タリ故ニ墾國ト主義同シクスルモノト云フヲ
 得サルナリ尤學國ノ制ニ付強テ其主義ヲ立シ
 トスル片ハ權利又ハ重要ナル利益ニ關スル場
 合ニ於テハ行政訴訟ヲ許シ利益ニ關スル場合
 ニ於テハ訴願ノミヲ許スモノト云フモ不可ナ
 カラシ平然シ氏或ル場合殊ニ警察事件ニ付テ
 ハ訴願又ハ行政訴訟ノ中其一ヲ提起スルヲ
 得ルモノト為セリ

問

答

訴願ハ法律ニ定ナタル場合ニ限り之ヲ提起ス
 得ルモト為ス片ハ其利害得失如何歟
 付テハ委ク意見ヲ聽キタルヲ得
 之ハ如ク決シテ限定スル一ヲ得
 普通ニ之ヲ許ササル可カラズ左ニ其理由ヲ必
 述ス
 第一 可シキ規定ヲ設ケントスルハ蓋ニ字
 國ノ制ニ依ラントスルナラニ字國ニ
 在テハ高等行政裁判所外自治行政
 裁判權ヲ委任タリ是カ以テ外
 設クサスルヲ得キ規定
 必要ナル其權限ヲ明カセテ依
 一アテハ其權限ヲ然レハ聞ク
 本ニ必要ナル行政裁判所ヲ設ケテ自治

第二

第三

行政裁判權ヲ與ヘサルモノノ規定ヲ立
 或ハ曰ン濫ニ訴願ヲ提起スルカ故ナリ
 是レ理由ナキト云ハサルヲ得ス何ト
 ナレハ訴願ノ途ヲ制限スル片ハ却テ國王
 又ハ議會ニ對シ濫ニ哀願ヲ提起スルノ結
 果ヲ生スレハナリ
 果テ生スレハナリ
 律ニ何ノ方法ニ依リ之ヲ設ケルヤ
 如キ法律ニテ遺漏ナキモノノ制定セ
 非サルナリ至難ノ下ニ從來提起セハ所
 九

願事件ヲ調査シ其ニ依リテ定ム可シト是
レ決シテ遺漏ナキモノト云フヲ得サル可
シ

第四

若シ此法律ニ遺漏アル片ハ不權ヲ生
シ為メニ人民ノ不平ヲ來シ政治上得策ニ
アラサル可シ

第五

行政上ノ處分ハ毎ニ統一ナラサル可カ
ラス若シ普通ニ訴願ヲ許ス片ハ其處分ヲ
統一ナラシムルヲ得ルモ之ニ及ビ訴願
ヲ為シ得ル場合ヲ限定スル片ハ其訴願
上サレサル事件ニ付テハ之ニ對スル行政
見解ヲ処分ヲ統一スルヲ得ス故ニ法律ノ
至

ル可シ

第六

其他下級行政廳ノ官吏ハ毎ニ法律ヲ誤
解シ以テ不當ノ処分ヲ為シ為メニ人民

第七

普通ノ弊害ヲ生スルモ計ル可カラズ
ニ明文ナシト雖モ若シ之ヲ普通ニ許サ
ルハ憲法ノ精神ニ戾ルモノト云ハサル
ヲ得ス何トシテハ國務大臣ハ天皇ヲ輔
シ其責ニ任スル者ナリ然ル片ハ所屬官吏
ノ為シタル処分ニ付テモ亦其責ニ任セサ
ル可カラサルカ故ニ之ヲ所屬官吏ノ為ス
所ニ放任スル下ヲ得サレハナリ

